

主日礼拝説教「全人類神の子化計画」 予稿

日本基督教団石神井教会 2025年9月7日

【旧約聖書日課】ハバクク書 3章17～19節

- ¹⁷ いちじくの木に花は咲かず
ぶどうの枝は実をつけず
オリーブは収穫の期待を裏切り
田畑は食物を生ぜず
羊はおりから断たれ
牛舎には牛がいなくなる。
¹⁸ しかし、わたしは主によって喜び
わが救いの神のゆえに踊る。
¹⁹ わたしの主なる神は、わが力。
わたしの足を雌鹿のようにし
聖なる高台を歩ませられる。
指揮者によって、伴奏付き。

【使徒書日課】ローマの信徒への手紙 8章18～25節

¹⁸現在の苦しみは、将来わたしたちに現されるはずの栄光に比べると、取るに足りないといわたしは思います。¹⁹被造物は、神の子たちの現れるのを切に待ち望んでいます。²⁰被造物は虚無に服していますが、それは、自分の意志によるものではなく、服従させた方の意志によるものであり、同時に希望も持っています。²¹つまり、被造物も、いつか滅びへの隷属から解放されて、神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかれるからです。²²被造物がすべて今日まで、共にうめき、共に産みの苦しみを味わっていることを、わたしたちは知っています。²³被造物だけでなく、“霊”の初穂をいただいているわたしたちも、神の子とされること、つまり、体の贖われることを、心の中でうめきながら待ち望んでいます。²⁴わたしたちは、このような希望によって救われているのです。見えるものに対する希望は希望ではありません。現に見ているものをだれがお望むでしょうか。²⁵わたしたちは、目に見えないものを望んでいるなら、忍耐して待ち望むのです。

【福音書日課】マタイによる福音書 13章24～43節

²⁴イエスは、別のたとえを持ち出して言われた。「天の国は次のようにたとえられる。ある人が良い種を畑に蒔いた。²⁵人々が眠っている間に、敵が来て、麦の中に毒麦を蒔いて行った。²⁶芽が出て、実ってみると、毒麦も現れた。²⁷僕たちが主人のところに来て言った。『だんなさま、畑には良い種をお蒔きになったではありませんか。どこから毒麦が入ったのでしょうか。』²⁸主人は、『敵の仕業だ』と言った。そこで、僕たちが、『では、行って抜き集めておきましょうか』と言うと、²⁹主人は言った。『いや、毒麦を集めるとき、麦まで一緒に抜くかもしれない。³⁰刈り入れまで、両方とも育つままにしておきなさい。刈り入れの時、「まず毒麦を集め、焼くために束にし、麦の方は集めて倉に入れなさい」と、刈り取る者に言いつけよう。』」

³¹イエスは、別のたとえを持ち出して、彼らに言われた。「天の国はからし種に似ている。人がこれを取って畑に蒔けば、³²どんな種よりも小さいのに、成長するとどの野菜よ

りも大きくなり、空の鳥が来て枝に巣を作るほどの木になる。」³³また、別のたとえをお話しになった。「天の国はパン種に似ている。女がこれを取って三サトンの粉に混ぜると、やがて全体が膨れる。」

³⁴イエスはこれらのことをみな、たとえを用いて群衆に語られ、たとえを用いないでは何も語られなかった。³⁵それは、預言者を通して言われていたことが実現するためであった。

「わたしは口を開いてたとえを用い、
天地創造の時から隠されていたことを告げる。」

³⁶それから、イエスは群衆を後に残して家にお入りになった。すると、弟子たちがそばに寄って来て、「畑の毒麦のたとえを説明してください」と言った。³⁷イエスはお答えになった。「良い種を蒔く者は人の子、³⁸畑は世界、良い種は御国の子ら、毒麦は悪い者の子らである。³⁹毒麦を蒔いた敵は悪魔、刈り入れは世の終わりのことで、刈り入れる者は天使たちである。⁴⁰だから、毒麦が集められて火で焼かれるように、世の終わりにもそうなるのだ。⁴¹人の子は天使たちを遣わし、つまずきとなるものすべてと不法を行う者どもを自分の国から集めさせ、⁴²燃え盛る炉の中に投げ込ませるのである。彼らは、そこで泣きわめいて歯ざしりするだろう。⁴³そのとき、正しい人々はその父の国で太陽のように輝く。耳のある者は聞きなさい。」

良い種は成長して…【こども説教のために】

日曜日の教会へと集められて来たわたしたちは、『聖書』の御言葉、中でも主イエスのお語りくださった御言葉を聞きます。それは、わたしたちが「神の子ら」にふさわしいものにされるためです。畑に「**良い種**」が蒔かれれば、成長して大きくなり、良い実を結ぶようになります。同じように、わたしたちの心に「良い言葉」が蒔かれれば、それは必ず、わたしたちの中で成長して大きくなり、良い実を結ぶようになるでしょう。

わたしたちが「悪い言葉」ばかりを聞いていたならば、わたしたちは、良い者として成長し、良い実を結ぶことはできません。主イエスは、「悪い言葉」ではなく、「良い言葉」をわたしたちにお語りくださるのです。「良い言葉」を聞く者は、良い実を結び、「神の子」として大きく成長させていただけるでしょう。

畑に「良い種」を蒔いていただきましょう。でも、その畑に「**毒麦**」を蒔いて行く者がいるかもしれません。どちらの種も芽を出し、成長し始めます。早く「毒麦」は取り除くべきでしょうか。間違って「良い種」から出た「麦」も抜き取ってしまうかもしれません。そのままにしておきましょう。「良い種」から出た「麦」は、大きく成長して、豊かに実を結ぶのですから。そのときには、「毒麦」を恐れることはありません。

『聖書』の御言葉を、主イエスにお語りいただきましょう。「良い言葉」を蒔いていただきましょう。「悪い言葉」に優る「良い言葉」が、わたしたちの中で大きく成長し、豊かに実を結ばせるようになるのです。

毒麦の中に麦？

石神井教会では、11月に6年ぶりの「オープンチャーチ」を開催する計画を進めています。

9年前、「扉」を開き、「心」を開いて、教会に多くの人を迎えようと始めましたが、コロナ禍で中断していました。もちろん、中断している間も、教会がいつでも「扉」の開かれたところであろうとしていること、「心」を開いてどなたのこともお迎えしようとしているところであることは、変わりありませんでした。すでに、年に一度の特別なイベントとして「オープンチャーチ」を開かなくても、十分に教会は開かれたところになってきた、とも言えるかもしれません。毎週、毎日が「オープンチャーチ」であれば、特別なイベントを開く必要はないのです。

それでも、今年は、皆さんの中から「オープンチャーチを開きたい」という声が上がリ、開催することになりました。皆さんの「もっと多くの方を教会にお迎えしたい」、「もっと多くの方のところにまで教会を届けたい」という思いからのことならば、歓迎すべきことでしょう。背伸びする必要はありません。身の丈に合った、等身大の石神井教会の姿を、多くの方に知っていただけるように、教会の「扉」をいつも以上に大きく開き、わたしたちの「心」をこれまで以上に大きく開け放てるように、準備を進めたいと思います。

「毒麦のたとえ」を弟子たちに説明されて、主イエスは、「**良い種を蒔く者は人の子、畑は世界、良い種は御国の子ら**」とおっしゃいます。主イエスは、弟子たちを「御国の子ら」とお呼びくださって、彼らを世界中にお蒔きになると言われるのです。いいえ、わたしたちにもおっしゃられているでしょう、「あなたがた**御国の子ら**を、この世界に蒔いて、実を結ばせよう」と。

「とんでもない。自分は**御国の子ら**と呼ばれる資格はない」などとおっしゃらないでください。皆さんの中に、すでに**良い種**が蒔かれてきたのです、御言葉が、御言葉を届ける**御国の子ら**の先達が。

「そうだとすると、自分の中は**毒麦**ばかりだ」と嘆かれるかもしれません。

『聖書』の御言葉に触れるのは、週に一度、日曜日の朝の礼拝のときだけ。巷にあふれる本や雑誌、テレビやSNSの伝える情報に埋もれてしまっていて、礼拝を終えて自宅に帰り着いた頃には、もう今日の御言葉が何だったのか思い出せない。とても主イエスに蒔いていただいた**良い種**が芽を出し、成長し、豊かな実を結ぶような生活をしているとは言えない、と。

そんなこと、主イエスは、もちろんご存じでしょう。世の中にあふれる毒麦を取り除くことが難しいことも、ご存じでしょう。だから、生真面目な者が、「毒麦を**抜き集めておきましょう**」と提案させても、やめさせられるのです。無理なことだからです。麦まで一緒に抜いてしまいかねないからです。

両方とも育つままに

教会は、主イエスが**良い種**を蒔いてくださるところのはずです。弟子たちをお集めになられた主イエスは、『聖書』の御言葉を「良い言葉」としてお教えくださったのです。そればかりか、ご自身の生涯、その命を「良いもの」として弟子たちにお与えくださったのです。その弟子たちから、教会は始まりました。

それでも、教会の中に**毒麦**は現れます。**敵**が紛れ込んでいるのでしょうか。教会の中に**悪い者の子**らがいるのでしょうか。紛れ込んでいるのでしょうか。毒麦は、教会の中でも育つのです。すさまじい生命力で、毒麦は育つのです。雑草の生命力です。侮れません。育って、場合によっては、それを口にした者に毒素をもたらしことさえある。それが毒麦です。

取り除いたほうがよいように思えます。それでも、主イエスは、おっしゃるのです、「**両方とも育つままにしておきなさい**」と。毒麦を取り除く必要はない、そのままにしておきなさい、とおっしゃる。

「けれども、刈り入れのときに、毒麦は集められて、焼かれてしまうのでしょうか」と心配なさるかもしれません。「自分は、毒麦ばかりだったら、どうしよう」と心配なさるかもしれません。

むしろ、わたしたちは、安心してよいのです。毒麦は最後まで残らない、とおっしゃってくださっているのです。悪いものは、最後には取り除かれる。それが大きな実を結ぶことはない、おっしゃってくださっているのです。

良い種から育った麦でさえ、刈り入れで収穫されるのは、その穂の実りだけです。麦わらは焼かれるか、捨てられるかするのです。もう、不要だからです。それは、最後の豊かな実りを結ばせるために必要なものだったとしても、実りそのものではないのです。

もしかすると、わたしたちが毒麦と思っているものさえ、そうなのかもしれません。最後の豊かな良い実りを得るために必要なものとして、混ざり込んでいるものがあるのならば、それを取り除くべきではないでしょう。

むしろ、神がお許しくださったあらゆるものが混ざり込んで来ることを、歓迎したらどうでしょうか。毒麦のように思われるものも、歓迎するのです。育つままにしておくのです。その中で、神がお与えくださる本当に良いものが、良い実を実らせるでしょう。主イエスがお語りくださった良い言葉が、実を結ばせるでしょう。毒麦も、神のお造りくださった被造物なのです。

神の子たちの現れるとき、すべての被造物が神の子供たちの栄光に輝く自由にあずかると、使徒パウロは、高らかに宣言しています。わたしたちも、同じ思いで、すべての被造物が光り輝く世界、神の国の希望を抱いて、出かけていくのです。**良い種**となって、世界という畑に出ていくのです。